



おいでませ
あやかし亭

戒

VIPなおせ様
× ショタ仲居



ようこそ
おいでくださいました



噂以上では
ないか……

……なんと



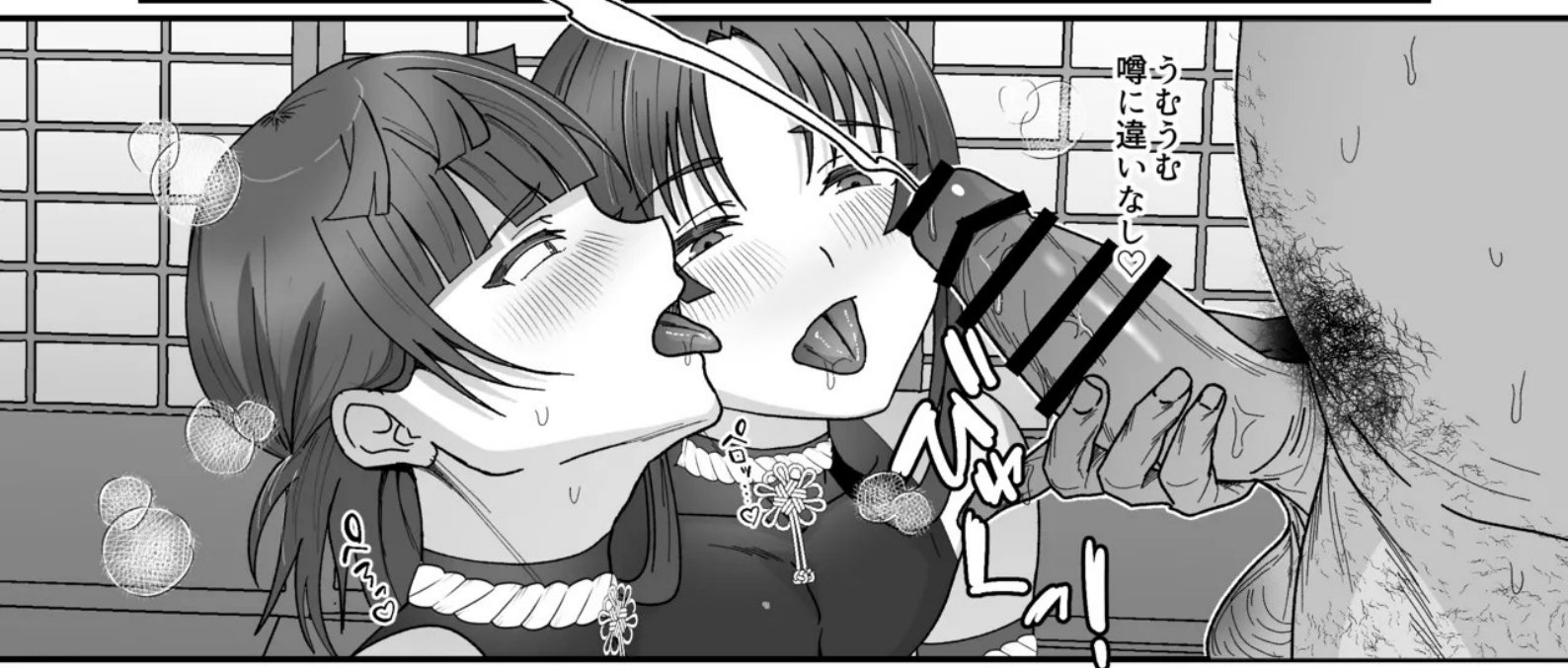
ふふ
緊張して
はるんです？

どうぞ
ごゆるりと
お過ごしやす

当旅館は
日々の喧騒から
離れて

のんびりと羽を
伸ばしていただく
場所ですから





ネットにも
そのような
情報は二切なく

楽園のような
薄ぼんやりとした
記憶だけが
残るそうだが

ならば良い♡
今この瞬間の快楽を
存分に楽しもう

あ♡

この尻肉の
やわさを♡

ドチュ♡
ドチュ♡
ドチュ♡
ぽんぽん

ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

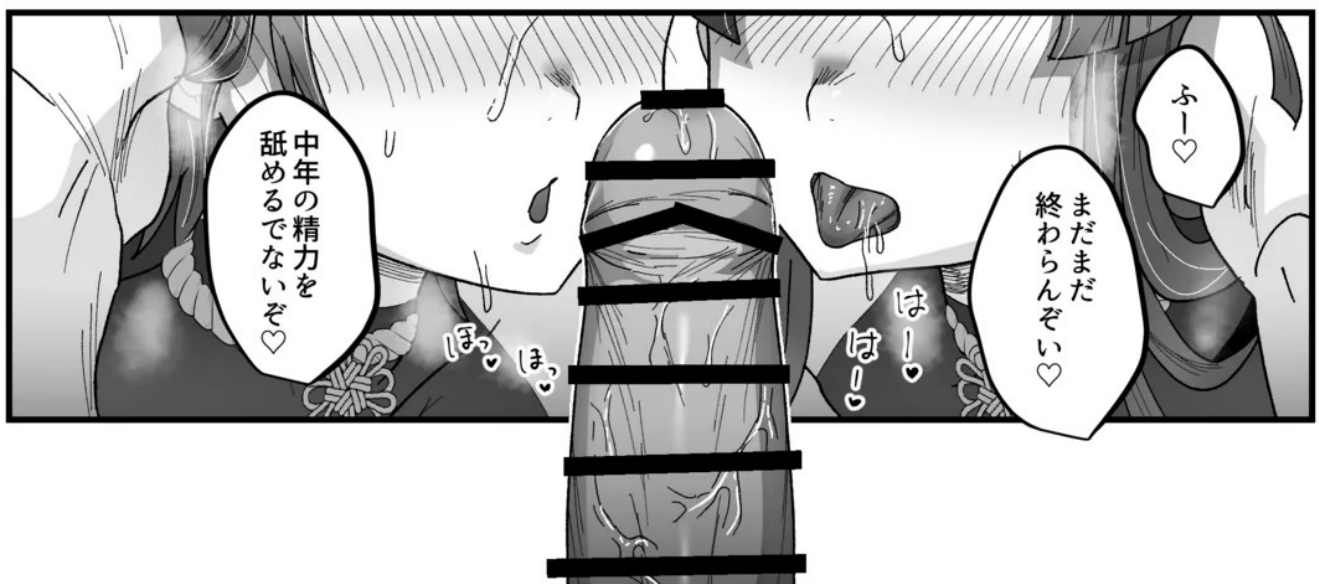
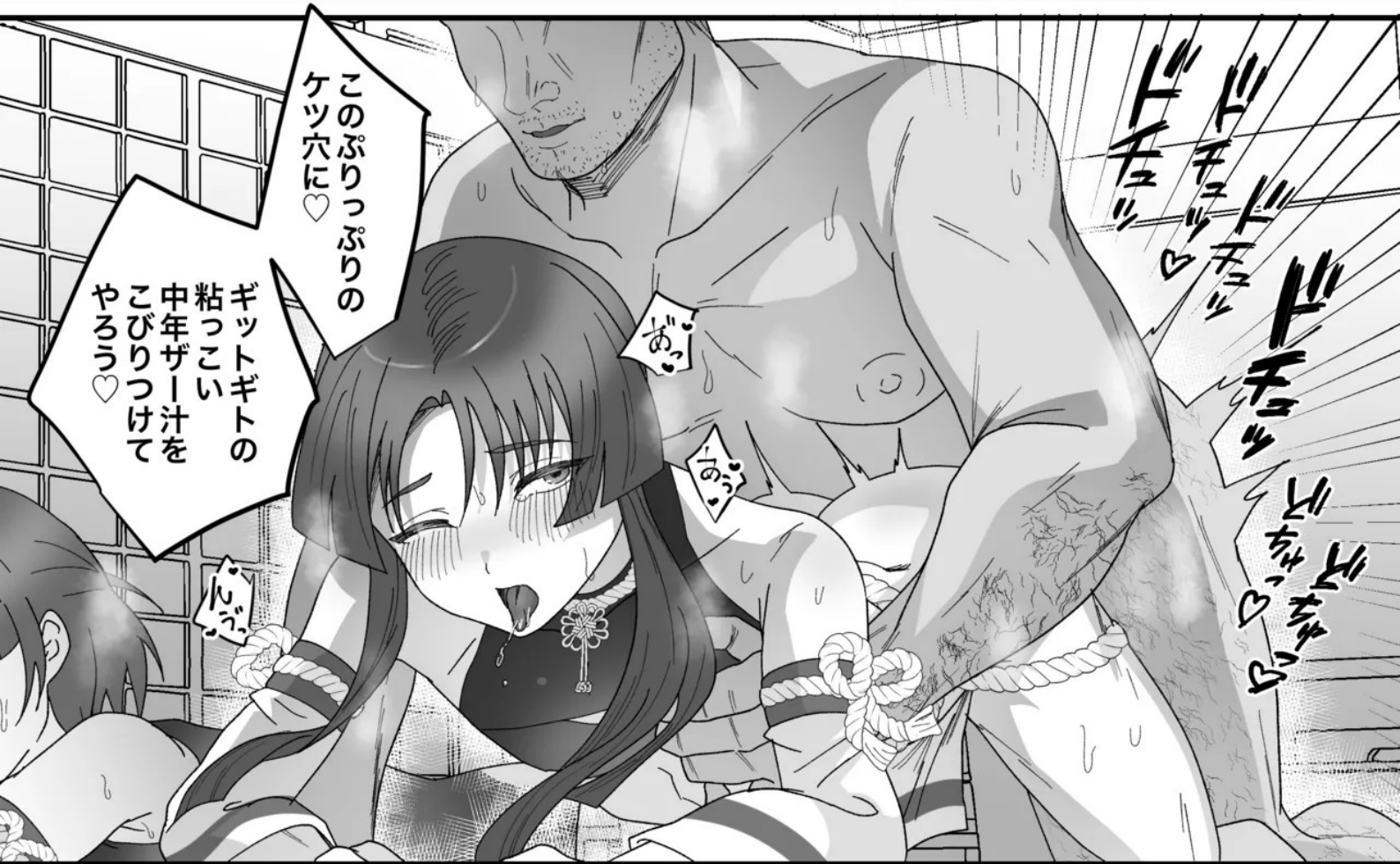
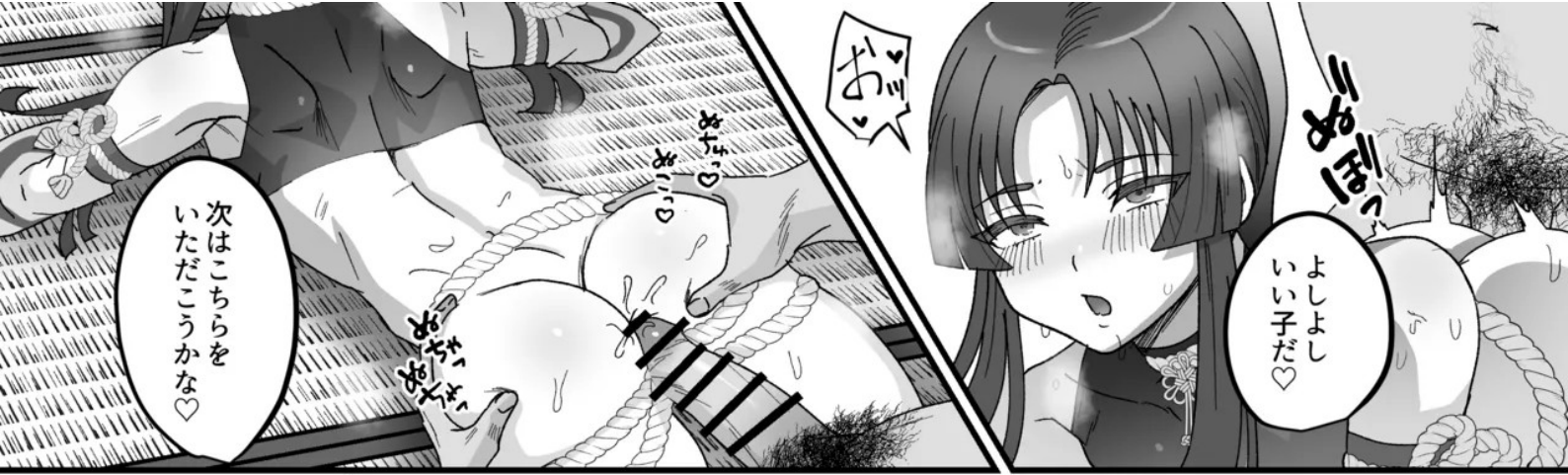
ズン♡
ズン♡
ズン♡

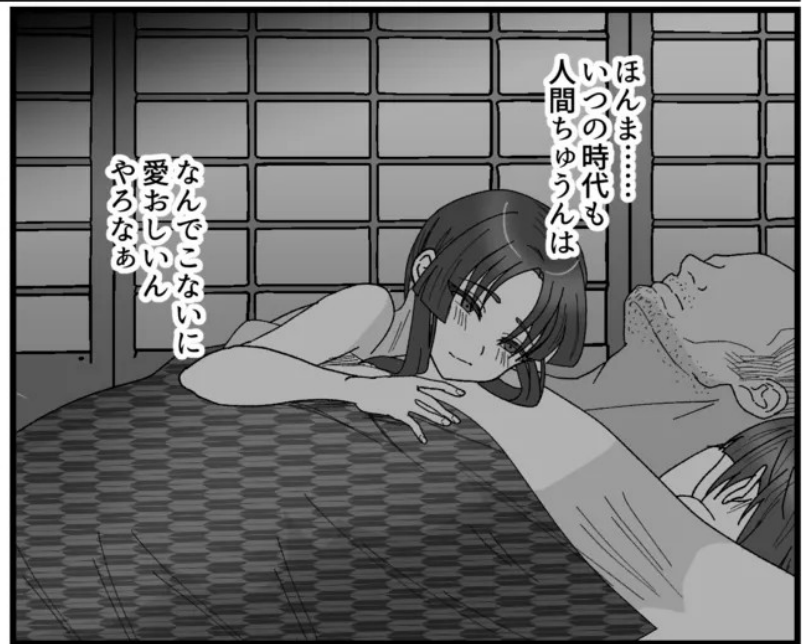
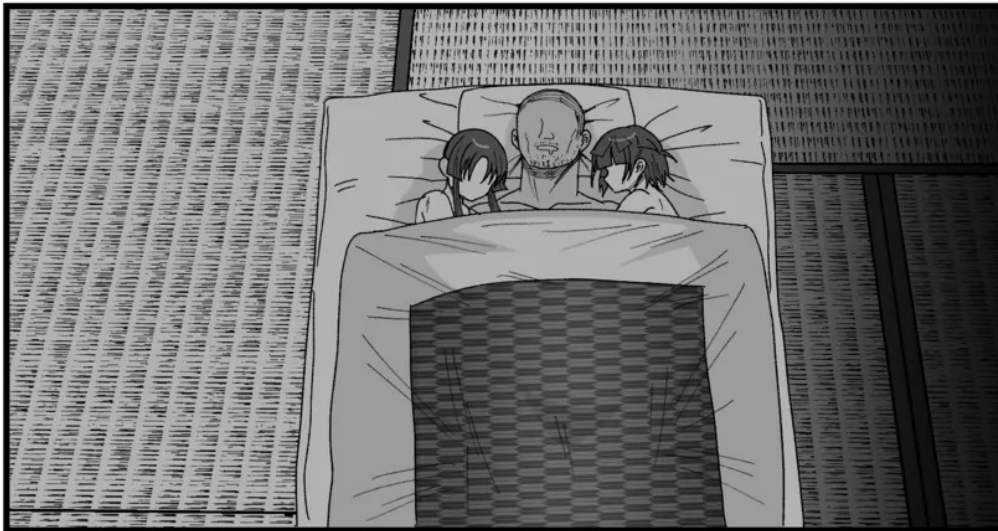
セッ♡

たっ♡

719

ア







はあ!?

俺に
継げって!?

荒樫弥二郎
年齢十七



そうだ
今日からお前が
荒樫亭の主人だ

博打なんか
やめて
真面目に働け

そりゃないぜ
叔父様!

親父様の跡は
弟の叔父様が
継ぐって話じゃ
なかったのかよ!

俺あただの
養子だぜ!?



身寄りのない
てめえを
誰がここまで
育てたと
思ってる?

こんな歳まで
フラフラ
遊び歩きやがって

少しは恩を
返やがれ

うう……っ

ふざけんな

ボロいし
客は来ねえし……
なんだって俺が
こんな宿……

確かに俺は
十二で拾われてから
ずっとと親父様に
付いて回ってたから
多少は顔が効くし
勝手はわかる

けど板前も
女中もいなければ
番頭だった
叔父様も逃げた

こんなの
潰れる寸前に
押し付けられた
ようなもんだ

はあ……
夜逃げでも
すつか……



なんだ
こんな時間に

お願い

助けて……!

お客さん
今夜はもう……

ガラッ



こいつの話を
要約すると……

この二人は
勝手に人様の家に
住みついていた
らしい

そんな勝手に
飯をくすねたのが
バレて家を追われ
石を投げられたと

当たり前だ
盗人じゃねえか

こんな奴ら
匿っていいのか？

……
どんだけ
腹減ってても

人様のもの
勝手に盗んじゃ
ダメだろ！

そうなの？

ものはあつたら
食べていいんじや
ないの？

そんなわけ
ねーだろ！

わかんないよ
人間の事情なんか

僕達妖怪に
押し付けないで

あのな！
ふざけるのも
大概に……

妖怪

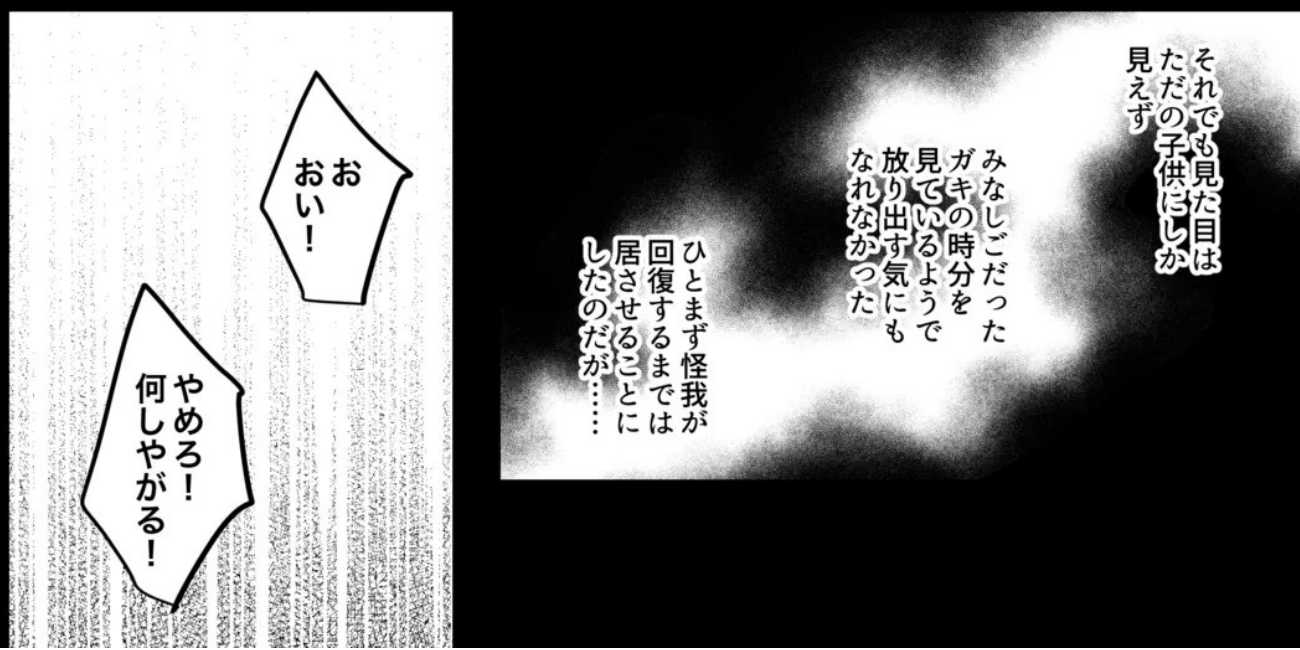


俺たちは
妖怪や



その瞬間

この二人が
一気に気味の悪い
存在に思えた



おい!

やめろ!
何しやがる!

それでも見た目は
ただの子供にしか
見えず

みなしごだった
ガキの時分を
見ているようで
放り出す気にも
なれなかった

ひとまず怪我が
回復するまでは
居させることに
したのだが……



それから
少しの間

行く宛もなければ
絶る人もない同士

いつしか床を
共にするように
なつた



不思議なことに
こいつらが
転がり込んで
きてから
客入りがいい

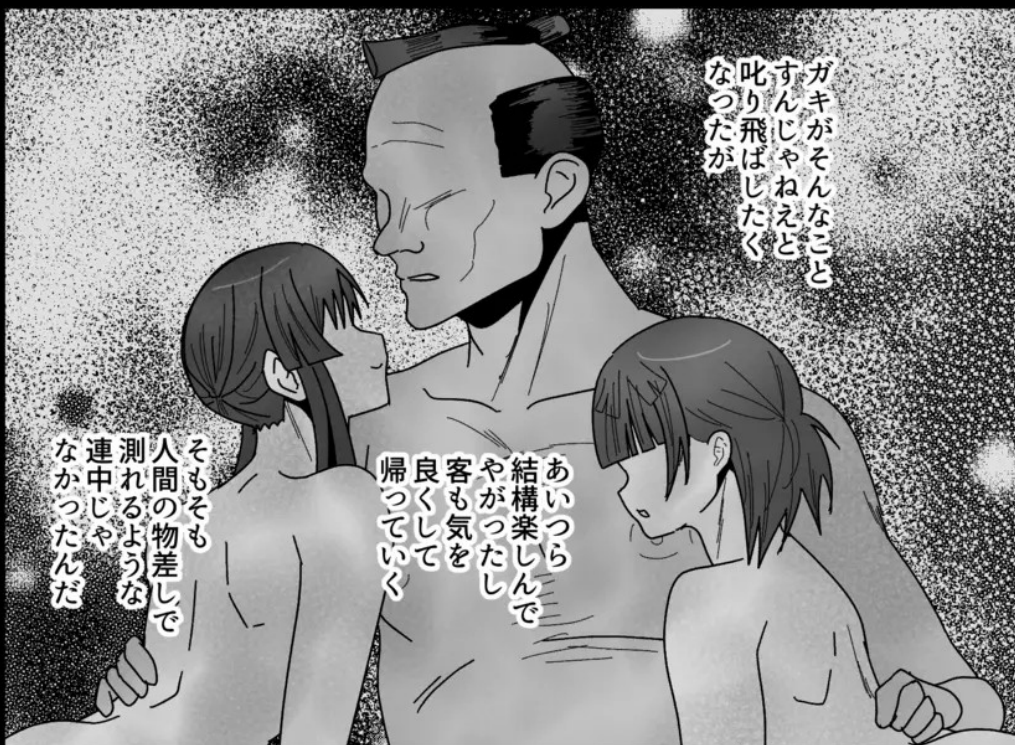
気づきや
毎日帳簿と
にらめっこだ

俺も心を
入れ替えて
真面目に
働き始めた

稼ぎが出りや
気持ちも
浮くもんで……









それから
この宿には
いいことばかり
起きた

働く仲間も増え
たつを嫁にもらい
子宝に恵まれ

荒檉亭は
連日繁盛した

もう銭に
困ることは
無くなった



俺は
病を患った

あいつらが
この宿に福を
呼んでくれたんだ

そんな日々が
十年以上も
続いたある頃



どれだけ
銭があっても

これだけは
どうにも
ならなかった

その頃には
もう

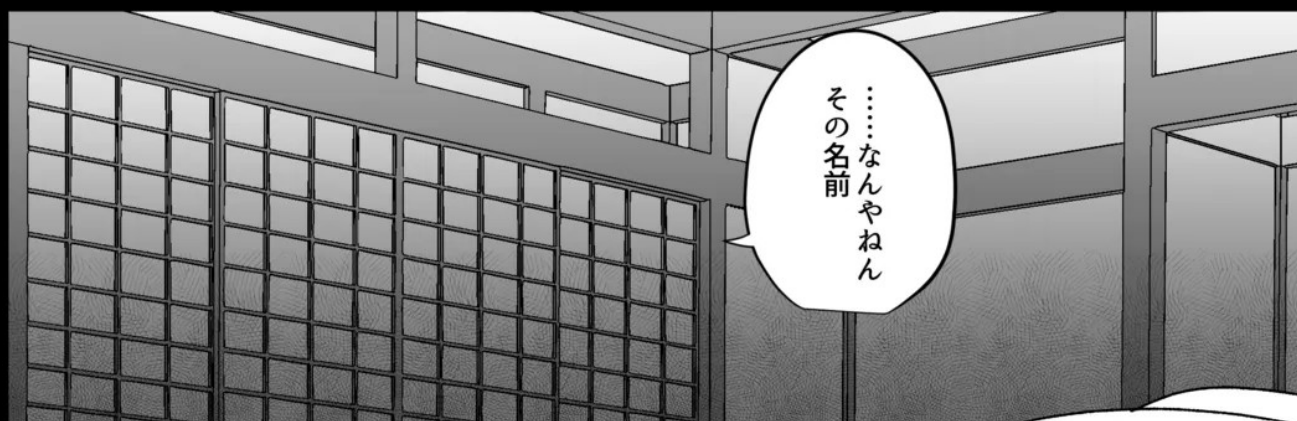
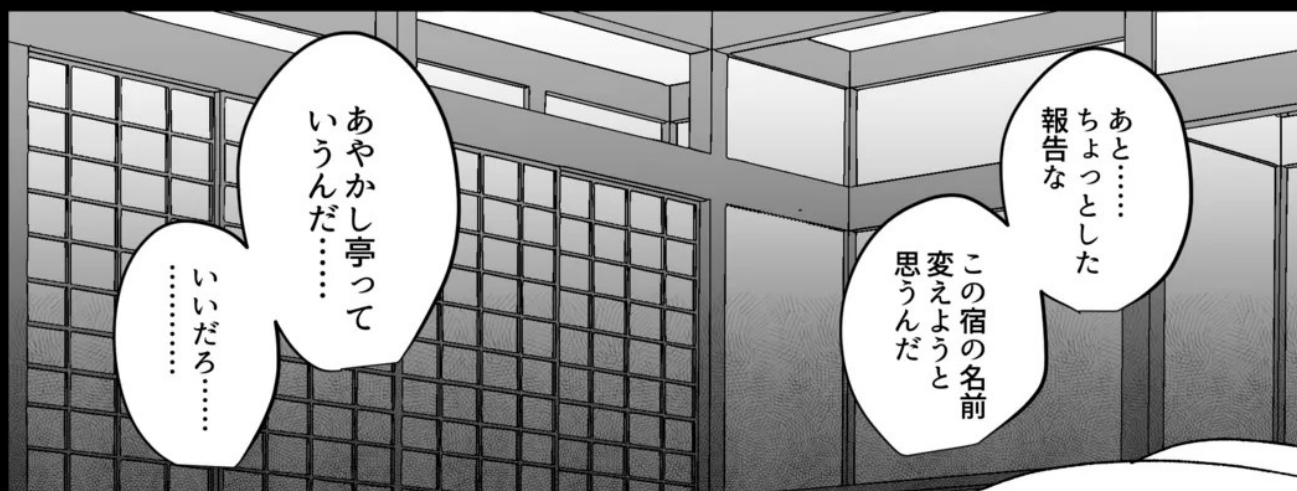
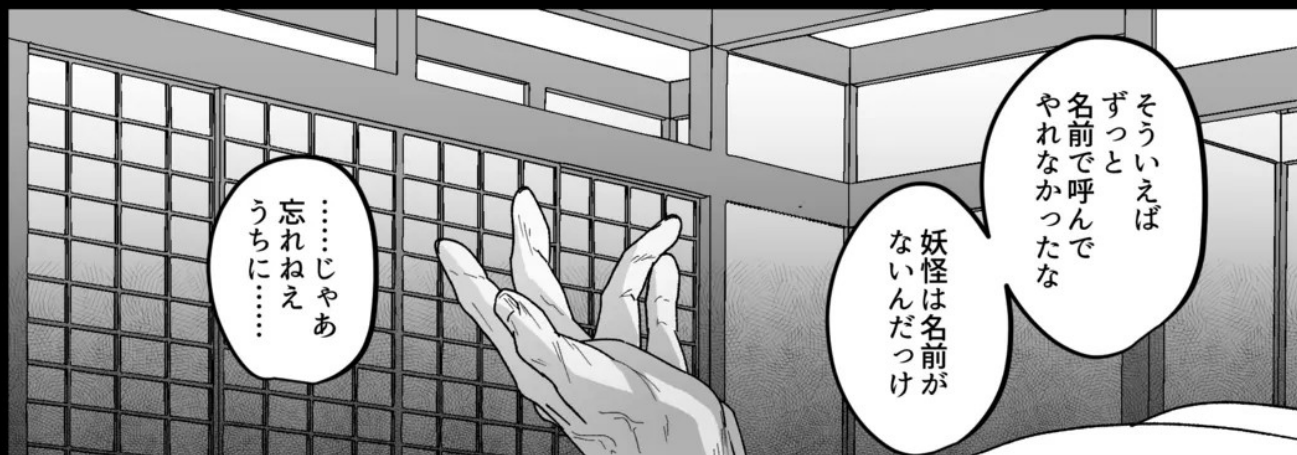
あいつらは
俺に姿を
見せることが
無くなっていた



あんた
寝てなよ

いや……いい
ちよつと一人に
してくれるか





弥二郎が僕らに
与えてくれたのは
名前だけじゃない

僕たちは
確かに
あの瞬間

ただの
妖怪から
座敷童に
なれたんだ

二〇二五年

そして今も
俺たちは……

ほほう♡
こりやあ
たまらんわい♡

ほんま
意地悪やな……♡

どこまで喘がせたら
氣い済むん……♡

むっほっほ♡
よう締めおって♡

わしのチンポに
惚れたかあ？

ほっ♡
ほっ♡
ほっ♡

ケツの奥が
ぴくぴくしとる♡
こんなのは
初めてじゃのう……♡

ふり♡
ふり♡

はあっ
やば……♡

はああんっ♡

ハッ♡
ハッ♡
ハッ♡

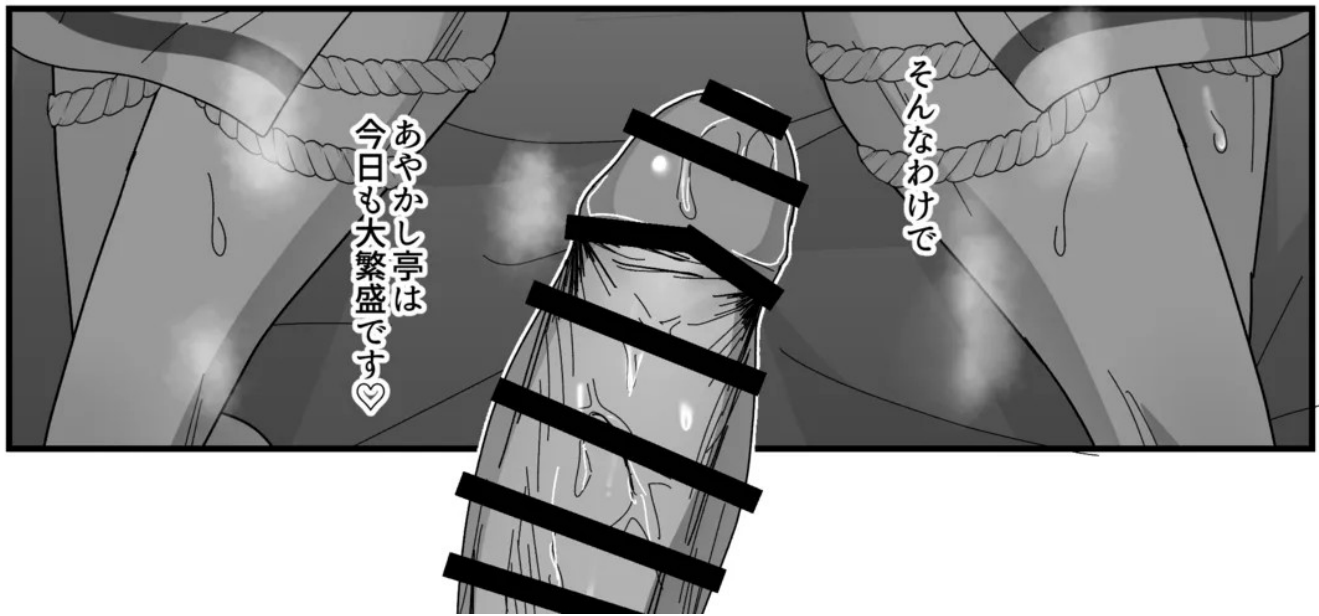




わしのチンポ
まだまだ
元気じゃろ？

ほれ三発目
いくぞい♡

はー
はー



そんなわけで

あやかし亭は
今日も大繁盛です♡



お願いします
ご先祖様……！

調理科のある
高校……
絶対絶対
受かりたい……！



ばあちゃん！

私も一緒に
ご先祖様に
お願いしよう
かしら



まあまあ

そんなに
心配しなくても
大丈夫よ



ふふ
待ってるわ



修行して
いっぱい
勉強して

絶対
あやかし亭に
帰ってくるから！



……
ばあちゃん
私……



幼い頃
確かに会った

ご先祖様の
お墓にいた
不思議な男の子

もうすっかり
見えなく
なっちゃった
けど……

きつと今も
見守っていて
くれてるよね



……
うん

行
っ
て
き
ま
す
!